

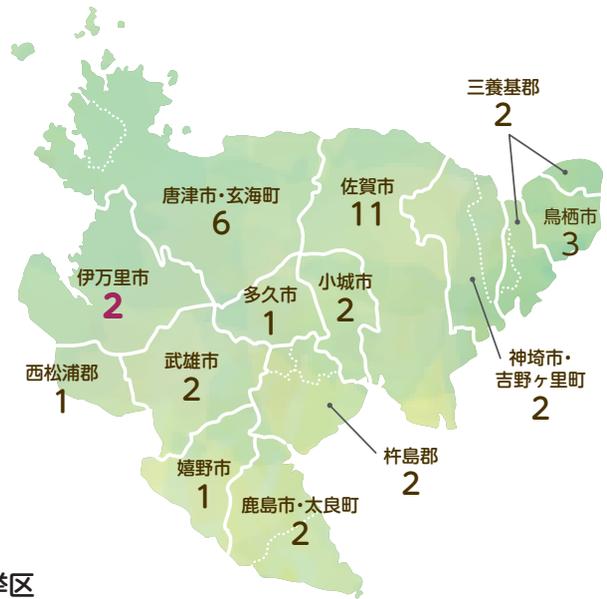
令和5年4月 佐賀県議会議員選挙が実施される予定です

令和5年4月29日の任期満了に伴い、佐賀県議会議員選挙が実施される予定です。

また、令和4年2月定例会で可決された「佐賀県議会議員の定数並びに選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例の一部を改正する条例」により、定数及び選挙区の名称等が改正されています。

■前回の選挙（平成31年4月7日）との違い

	(改正前)	(改正後)
・佐賀県議会議員定数	38人	→ 37人
・伊万里市選挙区の定数	3人	→ 2人
・選挙区の名称変更		
唐津市・東松浦郡選挙区		→ 唐津市・玄海町選挙区
鹿島市・藤津郡選挙区		→ 鹿島市・太良町選挙区
神崎市・神埼郡選挙区		→ 神崎市・吉野ヶ里町選挙区



令和4年11月定例会 概要 (会期 11月1日～11月22日)

令和4年11月定例会県議会では、佐賀空港の自衛隊使用要請や九州新幹線西九州ルート、中山間・離島等の振興、いじめ・不登校対策に関するものなど県政全般にわたる幅広い議論が行われました。

令和4年度補正予算案については、提出された6件の補正予算案が原案のとおり全て可決されたほか、9月定例会において継続審査となり、決算特別委員会（令和4年9月26日～10月7日開催）で審査された2件の決算議案が認定されました。

○令和4年度補正予算関係

- ・令和4年度一般会計に208億9,154万円を追加する予算（追加後総額6,070億4,305万円、対前年同期比4.9%減）
- ・小規模企業者等設備導入等事業支援特別会計補正予算、公債管理特別会計補正予算 など計6件

※予算案以外は7ページに記載しています。

主な内容

- ・令和4年11月定例会の概要など 1
- ・本会議質問 15人の議員が行った主な一般質問と答弁要旨 2～5
- ・委員会の概要、可決された条例・意見書など 6～7
- ・その他の議会活動など 8

[「インターネット議会録画」](#)
や「[会議日程](#)」、「[会議録](#)」などが
ご覧いただけます。

佐賀県議会 検索



議案に対する議員の表決態度（賛否）は、県議会ホームページで公表しています。（佐賀県議会 → 議案等の審議結果 → 議案件名一覧）



本会議質問

各議員が行った質問の中から一部を紹介いたします。

質問議員

※質問順

一般質問

11月8日(火)

- 向門 慶人 (自由民主党)
- 藤崎 輝樹 (県民ネットワーク)
- 中本 正一 (公明党)
- 古賀 陽三 (自由民主党)
- 川崎 常博 (自由民主党)

11月9日(水)

- 古川 裕紀 (自由民主党)
- 江口 善紀 (県民ネットワーク)
- 富田 幸樹 (自由民主党)
- 中村 圭一 (自由民主党)
- 下田 寛 (県民ネットワーク)

11月10日(木)

- 一ノ瀬裕子 (自由民主党)
- 西久保弘克 (自由民主党)
- 武藤 明美 (日本共産党)
- 古賀 和浩 (自由民主党)
- 田中 秀和 (自由民主党)



各議員の質問一覧は、佐賀県議会ホームページで「確認」ください。

政策・総務



原子力防災訓練について



毎年実施されている佐賀県原子力発電所から北西方向に放射性物質が拡散したと仮定する事例での避難訓練が多い。そこで、4方向の風向きに応じた避難計画を作成し、訓練を行ってはどうかだろうか。また、原子力災害が起きた際の避難受け入れ先の周辺地域の方々に対して、その地域が受け入れ先となっているという認識をしてもらうためにも周知を行ってはどうか。



原子力防災訓練は県や市町の地域防災計画に基づき実施している。この計画は住民一人一人に避難の手順を理解してもらい、覚えやすく、実行しやすいものとなっている必要があると考えている。そのため避難経路や避難先は単一のものとし、あらかじめ定めておくことを県の地域防災計画に明記している。基本となる避難手順

を理解することで、風向きなど状況に応じて柔軟に対応できると考える。まずは、基本となる避難経路や避難先を理解してもらえよう市町と共に周知啓発に努めていく。

また、避難先となっている地域に対しては避難元市町を通じて周知を図っているものの、関係市町の広報紙に具体的な訓練内容を記載したり、実際に訓練で使用する施設近隣の自治会の回覧等で周知したりするなど、関係自治体と協力し、一層の周知に努めていきたい。



▲原子力防災訓練の様子(松島屋内退避からの移動)

地域交流



九州佐賀国際空港の滑走路延長について

県では平成27年9月策定の「佐賀空港がめざす将来像」

の中で、現在2,000mの滑走路を2,500mに延長する検討を開始することを挙げ、今年行った国への政策提案の最優先課題の一つとして、佐賀空港の滑走路延長を認めるよう国土交通大臣に要望されたところである。そこで、滑走路延長の事業着手の目途、また実現に向けた考えを伺いたい。



佐賀空港に就航している海外の航空会社から、2,000m滑走路では安全運航の確保のため熟練パイロットによる運航を条件とするなどの制約が生じており、滑走路の2,500m化が望ましいとの強い要望がある。佐賀空港の更なる発展のためには、国際線運航の発展に制約のない安定的な就航・運航環境の整備が喫緊の課題と認識している。

地方管理空港の滑走路延長は、空港法の規定に基づき、国土交通大臣の同意を得た上で工事費用の50%を国負担で行うこととなっている。しかし、同法の附則で定められた地域のニーズに応じた滑走路延長を実現できる制度があるため、その活用を含め、一刻も早い滑走路延長の実現に向けて取り組んでいきたい。

問 「SAGA2024」の目的の一つに、選手や来県される方に佐賀を好きになってもらうことがあると考える。宿泊地や移動手段の確保、競技会場整備など大会運営の基礎となる部分をしっかりと行うことが肝要であるとともに、大会に携わる多くのボランティアや競技補助員が来県する選手や観覧者に対しておもてなしをする役割も大きいと思われる。大会運営に携わるボランティア

SAGA2024
開催に向けた準備について



▲H30年度(コロナ前)の国際線利用者数は、2,000m滑走路の空港としては全国1位。近隣の2,500m空港や3,000m空港と比べても多い。

や競技補助員の確保について、どのように取り組んでいるのか。



答 ボランティアはこれまでの開催県の実績から約3,600人、競技補助員は市町等の意見をもとに約6,000人に活動いただく見込みである。

このうち、ボランティアには大きく3つの区分があり、大会の運営に従事する運営ボランティアは、令和5年度から企業や団体などにも訪問するなどして、広く応募を呼びかける予定である。

また、聴覚障害者への手話通訳等を行う情報支援ボランティアは、平成30年度から研修を実施し、全国障害者スポーツ大会で選手団のサポートを行うサポートボランティアは、県内の医療福祉系の学校に学生の協力依頼をしているところである。

次に、競技運営のサポートを行う競技補助員については、高等学校などに協力要請を行っていく予定としている。

これらのボランティアや競技補助員の方には、おもてなしの心をもって選手や来場者に接するよう研修等を行い、来県される全ての方を歓迎し、佐賀ファンとなって帰っていただけたらいいようにしっかりと取り組んでいきたい。



▲手話通訳研修会の様子(佐賀市)

中山間地・離島・県境振興
対策本部について



問 離島は空気や水をきれいに保つ浄化作用や海洋資源を守る役割など多くの機能を果たしている。また、中山間地では土砂崩壊の防止や水質浄化など様々な機能が ある。

離島、中山間、双方地域の県境が様々な役割を果たしている中で、県は地域の課題に向き合い、平成28年5月に「佐賀県中山間地・離島・県境振興対策本部」を立ち上げているが、これまでどのような取組みを行ったのか。また、今後もこのような地域の振興に向けて、どのように取り組んでいくのか。



答 対策本部の取組みとして、離島では、島民の「子ども達の笑顔や笑い声を絶やしたくない」「すばらしい環境の島で子ども達に元気に育ってほしい」という思いから、平成29年に島留学が実現した。また、中山間地では、捕獲したイノシシの子どもの単価が成獣より低いことから逃がしているといった現場の声を聞き、その単価を上げる取組みを行っており、職員が直接現場に向いて地域の声を聞き、制度や規制を現場に合わせるようなことを議論している。

また、県内8ブロックで開催している「山の会議(仮)」では多彩な地域住民に参加してもらい、地域の熱い思いを語ってもらっている。対策本部は



▲「山の会議(仮)」吉野ヶ里・上峰・みやきブロック開催の様子



その思いを実現するために一歩進めるような雰囲気をつくと共に、現場に合っていない制度や規制を変えていく役割がある。

地域の方々との信頼関係を作り、地域の活性化につながるようこれから現場に足を運びながらしっかりと取り組んでいく。

健康福祉



プレコンセプションケアについて

問 福岡市では、**※プレコンセプションケア**の取組みの一つとして、30歳になる女性を対象に

卵巣内の卵子の数の目安がわかる血液検査を500円で受けられる助成を実施しており、検査を受けると、卵巣予備能（卵巣内に残っている卵子数）とともに、その後の健康管理などについてアドバイザーを受けることができる。

まずは若い世代に対する啓発活動が重要であるが、知識だけでなく、自分の身体を知ること、その後の健康管理や妊娠・出産に大

きな影響を与えると考えている。この検査は婦人科受診を促すきっかけにもなり、佐賀県でも是非導入してほしいと考えるが、県ではプレコンセプションケアの取組みについて、どのように考えているのか。



答 県では**※プレコンセプションケア**の取組みとして、性や妊娠、不妊などについて分かりやすく説明した冊子を作成し、県内の中高生や教職員等に配布したり、保健所の保健師が学校で出前講座を行ったりするなどして、早い時期から妊娠、出産に関する正しい理解が得られるよう取り組んでいる。

県はこれまでも妊娠、出産に関する普及啓発に取り組んでいるが、今後は**※プレコンセプションケア**という考えをより意識して、これまで以上に健康管理の意識を持ってもらえるように、提案の検査も含めて、効果的な取組みを考えていきたい。



※プレコンセプションケア

令和3年2月に閣議決定された「育医療等基本方針」において「女性やカップルを対象として、将来の妊娠のための健康管理を促す取組み」とされている。

農林水産



有明海の再生について



問 有明海の現状は、潮の流れ、流速の低下や底質の悪化、赤潮や貧酸素水塊の発生が増加するなど漁場環境の悪化により漁業生産は不安定となっており、漁家経営は非常に厳しいものがある。二枚貝類などの水産資源の回復やノリの安定生産に向けた方策を効果的に実施していく必要があると思うが、県では有明海の再生に向けた水産振興にどのように取り組んでいくのか。



答 県では、タイラギやアゲマキ、サルボウなどの二枚貝をはじめ、めとした水産資源の減少に対応するため、稚貝の移植や放流をはじめ、海底耕うんなどに取り組んでいる。また、近年では豪雨等の影響により、二枚貝がへい死するといった事例が見られたことから、移植用のタイラギ稚貝を豪雨の影響を受けにくい熊本県大草で一時的に飼育し、その後佐賀県側に持ち

帰って放流するなど、有明沿岸の3県と連携して近年の環境変化に対応した取組みも始めた。

安定したノリの生産に向けては、赤潮の発生予測や効果的な施肥技術の開発に取り組みとともに、有明海漁協と連携しながらノリの生育状況や海況調査を実施し、漁業者に対してきめ細かな技術指導を行っている。

今後も漁業者、漁協、関係機関との連携をさらに強め、有明海の水産資源の回復に向けた取組みを粘り強く実施していく。



▲サルボウ人工稚貝の放流の様子
(有明海佐賀県西南部海域)

県土整備



西九州自動車道のサービスエリア予定地について

問 西九州自動車道の延伸とともに、交通量も増加してきて

いると感じるが、西九州自動車道には休憩施設やトイレが設置されていない。

西九州自動車道は有料道路を前提として整備が進められていた当時、利用者へのサービス施設の設置を目的に、浜玉インターチェンジと唐津インターチェンジの間にサービスエリアの計画があり、国で用地を確保されていると聞いている。西九州自動車道の延伸も大変重要であるが、今後の利用者の増加を踏まえ、サービスエリア予定地に休憩施設やトイレを設置し、西九州自動車道の質をより高めていく必要があると考える。

また、延伸と並行して休憩施設を国が主体となって整備するよう国へ働きかけて欲しいと考える。

県はどのように考えているか。



西九州自動車道は、産業振興や地域振興といった効果の早期

発現に向け、国において供用区間の延伸が進められている。そうした中、唐津市で西九州自動車道サービスエリア予定地整備基本構想が策定され、平成29年3月には整備基本計画が策定された。その後、唐津市と国において、サービスエリア予定地の整備基本計画の実

現に向けた勉強会が開催されている。

サービスエリア等にある休憩施設やトイレは、運転者の疲労などによる事故防止の観点から、西九州自動車道の利便性向上が期待できるものと認識している。

サービスエリア予定地の整備について、国からは現時点で決まっていないと聞いている。県としては、唐津市の検討の熟度を見ながら、関係機関と連携して対応するとともに、整備に対する地元のことを国へしっかりと伝えていく。

教育



不登校対策について



県内の不登校児童生徒が増加しているが、不登校になっ

た場合、早い段階で学校に戻ることができるよう環境をつくること

が大切である。学習の遅れを気にすることなく教室に復帰できるように、パソコンを通じて授業をリモートで受ける環境を整えることで学力の維持ができ、授業につい

ていけないという心配が軽減されると思う。不登校対策の一つとしてICTを積極的に活用したらどうかと思うが、県としての考えを伺いたい。



県立学校における不登校の生徒へのICTを活用した支援として、校内の別室に登校した生徒に向けたオンライン授業を実施している。

また、担任又は関係者とのオンラインによる連絡や課題のやり取り、面接などICTの良さを生かした取り組みを行っている。一方で、不登校の生徒へのオンライン授業については、本人の意思や保護者との連絡、協力体制などが保たれていることや不登校が長期にわたることがないように配慮する必要があると考える。

今後不登校の児童生徒が社会的な自立や円滑な学校への復帰を目指す支援策の一つとしてICTを積極的に活用していきたい。



▲授業を教室外に配信する様子 (県立高校)



▲別室に設置したオンラインブース (県立高校)

この他、県政全般について幅広い議論が行われました。

【主な質問項目】

- ・佐賀空港の自衛隊使用要請について
 - ・九州新幹線西九州ルートについて
 - ・本県におけるキャッシュレス化の推進について
 - ・SAGA BLUE PROJ ECTにおける交差点のカラー化について
 - ・「サガマリアージュ」について
 - ・果樹の振興について
- など



各議員の質問一覧は
佐賀県議会ホームページで
ご覧ください。



総務常任委員会

付託議案の7件が原案可決、3件が同意されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（補正）予算関係分
- ・県職員給与条例等の一部改正

【主な質疑事項】

- ・佐賀空港の自衛隊使用要請について
- ・私立学校への支援について
- ・飲酒運転の根絶に向けた取組みについて など

【現地視察の様子】



警察本部 警備部 機動隊
(機動隊の活動・訓練状況)

文教厚生常任委員会

付託議案の5件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（補正）予算関係分
- ・県公立学校職員給与条例の一部改正

【主な質疑事項】

- ・教職員の長時間勤務縮減等の働き方改革について
- ・高齢者施設や保育所等、福祉分野の人材確保について
- ・県立高校の施設や設備の整備状況と管理運営について など

【現地視察の様子】



県立図書館（「みんなの森」整備の状況）
※「森」の字は、3つの「本」で構成した創作漢字です。

農林水産商工常任委員会

付託議案の7件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（補正）予算関係分
- ・県営土地改良事業に対する市町の負担

【主な質疑事項】

- ・中小企業の支援について
- ・DX・スタートアップ推進室について
- ・洋上風力発電事業の誘致検討について など

【現地視察の様子】



園芸ハウス団地（園芸ハウス団地の概要と
トレーニングファーム卒業生の状況）

地域交流・県土整備常任委員会

付託議案の8件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- ・一般会計（補正）予算関係分
- ・佐賀県道路公社の有料道路料金の変更に対する同意

【主な質疑事項】

- ・自発の地域づくりについて
- ・西九州新幹線開業後の長崎本線について
- ・地域公共交通利用促進事業について など

【現地視察の様子】



日吉神社境内地跡
(吉野ヶ里遺跡発掘調査の状況)

令和4年11月18日（金）に西九州新幹線開業後の状況について「嬉野温泉駅」、「武雄温泉駅」の視察を行い、鹿島市役所で意見交換を行いました。



11月定例会で条例などが次のとおり可決されました。

■ 条例（5件可決）

- 佐賀県手数料条例及び佐賀県事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例

【内容】

旅券法の改正に伴い手数料条例及び事務処理の特例を改正。

他4件

■ 決議（1件可決）

- 北朝鮮による弾道ミサイル発射に抗議する決議

その他の条例等はこちら→

令和4年11月定例会
議案採決結果一覧表（PDF）



その他の議会活動 ～勉強会を開催しました～

●新型コロナウイルス感染症の勉強会

日時 令和4年11月14日（月）

講師 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
国際感染症センター センター長 大曲貴夫 氏

演題 「最前線の新型コロナウイルス対策」

主な内容 国際感染症センターにおける感染症対応や新型コロナウイルス感染症の現状等

質疑応答 ・ワクチンや治療薬の開発及び普及状況について

・経済を回すこと、元の生活へ戻すことに関する見解について など



●九州新幹線西九州ルート整備促進議員連盟の勉強会

日時 令和4年11月17日（木）

講師 佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授 有馬隆文 氏

演題 「都市計画研究者が考える九州新幹線西九州ルート」

主な内容 まちづくりの観点から、新幹線の開通が今後の街の発展に役立つためのアイデア等

質疑応答 駅周辺の強化について



●難病対策推進議員連盟の勉強会

日時 令和4年11月21日（月）

講師 佐賀大学医学部救急医学講座教授／附属病院高度救命救急センター長 阪本雄一郎 氏

演題 「佐賀県の高度救命救急センターにおけるドクターヘリ・災害対応・新型コロナ対応」

主な内容 ドクターヘリの稼働状況や大学病院における新型コロナウイルス感染症の重症患者の受入体制等について

質疑応答 ・佐賀県内の病院間での情報共有システム導入後の効果

・佐賀大学医学部附属病院における病床の陰圧化などの新型コロナ対応について





フィンランド視察報告会を開催しました

- 日時** 令和5年1月16日（月）
- 報告者** 江口善紀議員、一ノ瀬裕子議員
- テーマ** フィンランド視察について
- 主な内容** 教育、子育て、エネルギーなど機能的にデザインされたフィンランドの社会システムに関する報告や、今後どのように県政に生かしていくか等
- 質疑応答** ・フィンランドが幸福度ランキング世界1位である要因
・ロシア、ウクライナとの関係性について など



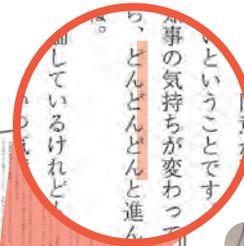
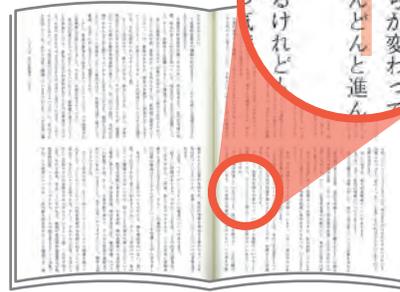
テレビ取材を受けました！



議会図書室が、テレビ局から取材を受けました。

議会の議事録にも掲載されている「佐賀の方言」についての取材です。

※佐賀県議会の議事録は、一般の方も議会棟1階議会図書室で閲覧ができます。（貸出は行っておりません。）



佐賀県をもっと知るため 議会を傍聴しよう！

登壇者以外の様子や議場の雰囲気など、中継にはない臨場感で傍聴できます



県議会の本会議や常任委員会、特別委員会は、どなたでも傍聴できます。

また、車椅子利用者、介助者各5名分用のスペース、AIによる字幕表示モニターもあります。

- 受付開始** 午前9時頃
 - 受付場所** 議会棟1階
- ※車でお越しの方は、県庁来訪者駐車場をご利用ください。

傍聴中の託児もできます！

傍聴希望日の1週間前までに議会事務局までお申し込みください。

- 対象** 生後6カ月～小学校就学前
- 問合せ** 0952-25-7215



議場を見学しませんか？

本会議等の行事がない日は、本会議場の見学ができます。

見学を希望される場合は、議会事務局総務課（TEL：0952-25-7215）へお気軽にお問合せください。

※事前予約制

- 見学時間** 月～金/午前9時～午後5時（祝日、年末年始を除く）
- 所要時間** 約30分



インターネットでも本会議、各委員会の様子をリアルタイムで視聴できます。

